

## 国際環境工学部 エネルギー循環化学科 教育における三つの方針

### 学位授与方針 [学士(工学)]

#### ■ 知識・理解

- ☐ 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
- ☐ 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解1】
- ☐ 化学技術と化学に関する基礎知識、物質変換を含む物質の流れについて、環境・エネルギー問題、化学工業と関連づけて理解している。【専門分野の知識・理解2】

#### ■ 技能

- ☐ 化学技術者に必要とされる基本的な実験技術、正確なデータ整理、科学的に正確な解析能力を身につけている。【専門分野のスキル】
- ☐ 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】

#### ■ 思考・判断・表現

- ☐ 自ら得たデータや解析結果を論理的な思考・判断によって、環境・エネルギー等の問題の本質を化学の視点から明らかにし、問題解決法を生み出す応用力を身につけている。【課題発見・分析・解決力】
- ☐ 自らの思考・判断のプロセス、結論を適切な方法で表現することができ、客観的な視点に立って議論することができる。【プレゼンテーション力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- ☐ 地球規模で抱えている環境・エネルギー問題を解決する意欲と行動力を持っている。【実践力（チャレンジ力）】
- ☐ 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- ☐ 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- ☐ 化学技術者としての社会的責任感と倫理観を身につけている。【市民としての社会的責任・倫理観】
- ☐ 地球規模で抱えている環境・エネルギー問題に関心を持っている。【生涯学習力】
- ☐ 他者と協力して、問題解決に向けて行動できる。【コミュニケーション力】

### 教育課程編成・実施方針

エネルギー循環化学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目（人文・社会科目）」から16単位以上、「教養教育科目（環境科目）」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。（詳細は別記）
- 「専門教育科目」は将来、化学を基盤とした科学者・技術者となるための知的基盤および論理的な思考能力の養成を目的とする科目区分とする。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究（卒業設計含む）」から8単位を修得する。各科目群の詳細は以下のとおりとする。
  - ☐ 工学基礎科目  
学問領域を学ぶ上で基盤となる科目を学ぶ。特に、有機化学、無機化学、物理化学など化学の根幹をなす学問領域の基礎科目として1年次に基礎有機化学、基礎無機化学、化学熱力学、基礎化学工学を配置し、これらについて学ぶことで、科学者・技術者としての知的基盤の形成を行う。  
また、実験技術の基礎を修得するために物理実験基礎、化学実験基礎を1年次に配置する。  
必修科目を含め、25単位以上を修得する。
  - ☐ 専門科目  
有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、化学工学についてより高度な専門科目を学ぶために、関連する科目を2年次から積み上げ式に配置する。  
また、修得した知識を実際に活用できる能力を身につけるために、上記の科目群についての実験・実習および演習科目を系統的に行う。これらの科目により、知的基盤を確固たるものにし、かつ、論理的な思考に基づいて専門知識を応用し、問題を解決する力を養う。  
必修科目を含め、65単位以上を修得する。

□ 卒業研究

未知の問題を解決するための効果的な手段を論理的な思考に基づいて企画を立案、実施し、成果を論文にまとめ発表する過程を通して、創造力・専門知識の応用力・コミュニケーション能力を養う。8単位を修得する。

**入学者受入れ方針**

エネルギー循環化学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- エネルギー・環境分野に関心を持ち、その解決のために工学を応用する意欲を持っている学生
- グローバルな視点からエネルギー・環境問題解決に貢献したいという意欲を持ち、そのための化学を中心とした自然科学の知識習得を目指す学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生

## 国際環境工学部 機械システム工学科 教育における三つの方針

### 学位授与方針 [学士(工学)]

#### ■ 知識・理解

- ☐ 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
- ☐ 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解1】
- ☐ ものづくりに必要な機械工学の基本的・基礎的学力を有し、重要な概念や知識については、環境を踏まえた広い視野を持っている。【専門分野の知識・理解2】

#### ■ 技能

- ☐ 機械システム技術者として、ものづくりの技術開発に必要とされる基本的・基礎的技能を身につけている。【専門分野のスキル】
- ☐ 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】

#### ■ 思考・判断・表現

- ☐ 新たな問題について、環境負荷低減とグローバル最適化の視点から捉えて思考・判断し、適切に対処することができる。【課題発見・分析・解決力】
- ☐ 自分の意見を的確に表現し、論述することができる。【プレゼンテーション力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- ☐ 持続可能な社会の発展を目指して、自ら種々の課題に取り組む意欲を持ち、機械システム技術者として各方面で活躍することができる。【実践力（チャレンジ力）】
- ☐ 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- ☐ 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- ☐ 技術が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけている。【市民としての社会的責任・倫理観】
- ☐ 資源の有効利用や省エネルギー技術に関心を持っている。【生涯学習力】
- ☐ 自分の考えを相手に効果的に伝え討論できる能力を有する。【コミュニケーション力】

### 教育課程編成・実施方針

機械システム工学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目（人文・社会科目）」から16単位以上、「教養教育科目（環境科目）」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。（詳細は別記）
- 「専門教育科目」は、ものづくりに必要な機械工学の基本知識と解析能力を修得し、研究開発に不可欠な設計力や分析力を養うことを目的とする科目区分とする。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究」から8単位を修得する。各科目群の詳細は以下のとおりとする。
  - ☐ 工学基礎科目  
「専門科目」を学習するために工学の基礎となる数学、力学、情報処理学および統計学を1年次から2年次に配置する。  
また、基礎的な知識を応用し、課題発見・解決能力、分析力、データ処理能力を形成していくため、演習科目、実験科目を配置する。  
必修科目を含め、25単位以上を修得する。
  - ☐ 専門科目  
1年次から4年次までの積み上げ方式の学習を保证する中核科目群である。  
機械技術者として修得すべき機械工学の基礎知識である材料力学、流体力学、熱力学、機械力学およびそれらの演習科目を1年次から3年次に配置する。  
これらの基礎力学を基にして、基礎的技能、課題発見・解決能力、実践力、生涯学習力を獲得するため、機械設計、加工、伝熱、制御、振動、流体機械に関連する科目およびその演習科目を配置する。  
また、社会的責任・倫理観を養成するため、環境機械特別講義を配置する。

さらに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、生涯学習力を向上させるため、応用的な専門科目、実験科目、実習科目を配置する。

必修科目を含め、65 単位以上を修得する。

□ 卒業研究

機械システム工学の基礎科目および専門科目で修得した基礎知識、基礎的技能、解析および分析能力を、具体的な研究テーマに応用することで、課題発見・解決能力、実践力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を向上させることを目的として、4 年次に配置する。8 単位を修得する。

### 入学者受入れ方針

機械システム工学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- エネルギー・環境問題に関心を持ち、その解決のために工学を応用する意欲を持っている学生
- グローバルな視点から“ものづくり”技術の発展に貢献したいという意欲を持ち、その基盤となる数学、物理、化学などの基礎学力を持っている学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生

## 国際環境工学部 情報メディア工学科 教育における三つの方針

### 学位授与方針 [学士(工学)]

#### ■ 知識・理解

- ☐ 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
- ☐ 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解 1】
- ☐ 情報メディア工学の要素技術に関する幅広い基礎知識とその関連分野の知識について、人間、社会、環境と関連づけて理解している。【専門分野の知識・理解 2】

#### ■ 技能

- ☐ 情報通信、信号処理、ソフトウェア開発、集積回路設計などの基本的な技能を身につけている。【専門分野のスキル】
- ☐ 英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】

#### ■ 思考・判断・表現

- ☐ 情報環境が生み出す諸課題について、情報メディア工学の本質を捉えた解決法を考察・立案し、その実践結果を評価することで結論を導き出すことができる。【課題発見・分析・解決力】
- ☐ 自らの思考・判断のプロセス、結論を適切な方法で表現することができる。【プレゼンテーション力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- ☐ 情報化社会の時代の変化に対応して自己の能力を高め、社会に貢献することができる。【実践力(チャレンジ力)】
- ☐ 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- ☐ 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- ☐ 技術が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけている。【市民としての社会的責任・倫理観】
- ☐ 情報メディア工学に関する様々な問題に関心を持っている。【生涯学習力】
- ☐ 組織の中で、他者と議論し協働しながら目標に向かって行動することができる。【コミュニケーション力】

### 教育課程編成・実施方針

情報メディア工学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目(人文・社会科目)」から16単位以上、「教養教育科目(環境科目)」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。(詳細は別記)
- 「専門教育科目」は、電子・情報・通信工学の基本知識と能力を修得し、システム開発やサービス創造に必要な論理的な思考能力、分析力、設計力を養うことを目的とする科目区分とする。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究」から8単位を修得する。各科目群の詳細は以下のとおりとする。
  - ☐ 工学基礎科目  
「専門科目」を学習するために必要な数学、物理に関する理工学の基礎を1年次に配置する。  
また、情報メディア工学を学ぶツールとして計算機を利用する演習科目を配置する。  
必修科目を含め、25単位以上を修得する。
  - ☐ 専門科目  
通信・メディア、及びコンピュータシステムについてより高度な専門科目を学ぶために、関連する科目を2年次より積み上げ式に配置する。  
また、修得した知識を実際に活用できる能力を確実に身につけるために、上記の専門科目群について計算機プログラムを介したシステム解析・開発等の演習と実験を系統的に行う。  
さらに、2年次、3年次に共通の題材を扱い、自発・自律的な課題の発見・分析・解決のための能力を養う。  
必修科目を含め、65単位以上を修得する。
  - ☐ 卒業研究  
情報メディア工学の基礎科目および専門科目で修得した基礎知識、基礎的技能、解析および分析能力を、具体的な研究テーマに応用することで、課題発見・解決能力、実践力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を向上させることを目的として、4年次に配置する。8単位を修得する。

## 入学者受入れ方針

情報メディア工学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- 情報環境の生み出す諸問題に関心を持ち、その解決のために情報メディア工学を応用する意欲を持っている学生
- 情報化社会の時代変化に対応して社会に貢献したいという意欲を持ち、その基盤となる数学、物理などの基礎学力を持っている学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生

## 国際環境工学部 建築デザイン学科 教育における三つの方針

### 学位授与方針 [学士(工学)]

#### ■ 知識・理解

- ☐ 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
- ☐ 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解1】
- ☐ 建築学を過去から未来へ繋がる豊かな人間環境と空間形成として理解し、環境問題も含めた総合的な視点から建築学の概念及び専門知識を理解している。【専門分野の知識・理解2】

#### ■ 技能

- ☐ 地球環境に配慮した建築、地域・都市の企画、設計、施工、保全、再生などに必要な技能を身につけ、サステナブル建築・都市の実現に応用できる。【専門分野のスキル】
- ☐ 建築生産を進める上で必要なコミュニケーション技能、日本語記述技能を身につけている。【専門分野のスキル】
- ☐ 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】

#### ■ 思考・判断・表現

- ☐ 建築学に関する社会的事象に対して、国際的および持続可能性の視点から課題を抽出し、論理的な思考によって、地球環境に配慮しながら課題の解決方法を立案できる。【課題発見・分析・解決力】
- ☐ 自らの思考・判断のプロセスを適切に説明でき、国際的に活躍できる表現力を身につけている。【プレゼンテーション力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- ☐ 持続可能な国際社会の形成に貢献できる「アーキテクト・マインド」を獲得している。【実践力(チャレンジ力)】
- ☐ 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- ☐ 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- ☐ 建築技術者として社会に対して負う責任を理解している。【市民としての社会的責任・倫理観】
- ☐ 建築学を自主的・継続的に学習できる。【生涯学習力】
- ☐ 与えられた制約の下で計画的にプロジェクトをまとめ、地域や組織の中で他者と協働して進めることができる。【コミュニケーション力】

### 教育課程編成・実施方針

建築デザイン学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目(人文・社会科目)」から16単位以上、「教養教育科目(環境科目)」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。(詳細は別記)
- 「専門教育科目」は建築デザインおよび建築技術に関する基礎学力と実践力を獲得し、地球環境に配慮した建築・都市の創造と保全に貢献できる人材の育成を目的とする科目区分とする。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究(卒業設計含む)」から8単位を修得する。各科目群の詳細は以下のとおりとする。
  - ☐ 工学基礎科目  
1年次には工学の基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する知識と共に、建築学の基盤となる構造、材料、環境、設計の基礎を学ぶ。必修科目を含め、25単位以上を修得する。
  - ☐ 専門科目  
2年次以降で地球環境を視野に入れた建築学の専門科目を重点的に学習する。  
専門科目は一級建築士試験の指定科目を包含し、その知識を高度に発展できる内容を学ぶ。  
建築学の基盤をなす構造・施工・材料・環境設備・計画設計の各分野に実験、実習、演習、見学を第一義として取り入れ、建築学に必要な技能を体得する。  
意思疎通を可能にするため論理的な記述力、討議等のコミュニケーション能力を養う。  
必修科目を含め、65単位以上を修得する。

□ 卒業研究・卒業設計

1～4年次の講義、実験、実習、演習を通して学習した知識、技能、表現力を結集し、4年次において与えられた制約の下で卒業研究、卒業設計に取り組み、論文、作品を完成させる。

研究・設計プロジェクトを通して建築学の継続的な自己研鑽力を養い、技術者の社会的責任を自覚して「建築技術者の精神」を育む。8単位を修得する。

### 入学者受入れ方針

建築デザイン学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- エネルギー・環境問題に関心を持ち、その解決のために工学を応用する意欲を持っている学生
- 高度な専門知識を有する建築技術者や一級建築士を目指すには、建築学の専門科目を学ぶ必要があるため、その基盤となる理数系の素養のある学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生
- 誇りある建築技術者となるために必要な、責任感、倫理観を有する学生



## 国際環境工学部 環境生命工学科 教育における三つの方針

### 学位授与方針 [学士(工学)]

#### ■ 知識・理解

- ☐ 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
- ☐ 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解1】
- ☐ 生命科学、環境科学、環境マネジメント学を基本とした専門的知識を総合的に理解している。【専門分野の知識・理解2】

#### ■ 技能

- ☐ 環境生命分野で必要とされる情報を実験や調査により収集・解析し、生態系や環境、社会に配慮しながら技術開発を進める技能を身につけている。【専門分野のスキル】
- ☐ 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】

#### ■ 思考・判断・表現

- ☐ 生物・生態系のもつ高度な仕組みを活用して、新機能性材料、エコプロダクツ、エネルギーなどを創成する技術を提案することができる。【課題発見・分析・解決力】
- ☐ 自分の考えを論理的に正しくプレゼンテーションできる。【プレゼンテーション力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- ☐ 環境生命分野における国際的な視野をもって広く社会に貢献することができる。【実践力（チャレンジ力）】
- ☐ 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- ☐ 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- ☐ 技術が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけ、他者と協力しながら行動できる【市民としての社会的責任・倫理観】
- ☐ 環境生命分野に関する問題意識を持ち、その解決に必要な専門的知識・技術の修得に向け、生涯にわたり努力することができる。【生涯学習力】
- ☐ 地域や組織の中で相互に啓発し合い、他者と協力して課題解決に取り組める。【コミュニケーション力】

### 教育課程編成・実施方針

環境生命工学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目（人文・社会科目）」から16単位以上、「教養教育科目（環境科目）」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。（詳細は別記）
- 「専門教育科目」は、生命材料化学、生物生態工学、環境マネジメントの3つの教育研究分野に関わる知識と技能を身につけるための科目からなる。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究」から8単位を修得する。
  - ☐ 工学基礎科目  
3つの教育研究分野共通の基礎となる化学、生物、物理、数学の専門知識・技能について、座学の講義や学生実験・演習を通じて1年次から3年次まで積み上げ方式で学ぶ。  
環境生命工学分野での社会的責任感・倫理観の醸成、また、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の強化を同時に行う。  
必修科目を含め、25単位以上を修得する。
  - ☐ 専門科目  
1つの教育研究分野を選択し、知識・技能を高める。課題発見・解決能力、実践力の養成を重視する。  
また、発展的な課題を扱う科目を配置し、就職・進学後の継続的な学習に備える。必修科目、選択必修科目を含め65単位以上を2年次から3年次の間に修得する。  
各教育研究分野に適した科目の取り方を修得モデルで例示する。
  - ☐ 卒業研究  
4年次の卒業研究において、研究活動への参画を通じ、座学の講義や学生実験・演習で学んだ知識・技能を実際

に運用可能な水準まで高める。通年で8単位を修得する。

### 入学者受入れ方針

環境生命工学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- エネルギー・環境問題に関心を持ち、その解決のために工学を応用する意欲を持っている学生
- グローバルな視点から“ものづくり”技術の発展に貢献したいという意欲を持ち、その基盤となる数学、物理、化学、生物などの基礎学力を持っている学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生
- 生物のもつ高度な仕組みを活用した新しい技術の創出を目指すため、生命科学と化学に関心を持ち、バイオテクノロジー、生態保全、環境マネジメントに取り組む意欲を持っている学生

## 地域創生学群 地域創生学類 教育における三つの方針

### 学位授与方針 [学士（地域創生学）]

#### ■ 知識・理解

- 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21 世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】

(地域マネジメントコース)

- 地域に関する様々な専門知識に加え、政治、行政、経済、経営、会計、情報技術、法律などの専門知識について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。【専門分野の知識・理解】

(地域福祉コース)

- 地域に関する様々な専門知識に加え、老人、障害者、児童といった現代社会における福祉の専門知識について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。【専門分野の知識・理解】

(地域ボランティア養成コース)

- 地域に関する様々な専門知識に加え、スポーツ指導理論や障害者スポーツに関する理論等について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。【専門分野の知識・理解】

#### ■ 技能

(地域マネジメントコース)

- 地域活動を行っていく上で必要とされる、情報技術を活用した統計処理の手法、財務的・会計的な分析能力といった技能を身につけている。【専門分野のスキル】

(地域福祉コース)

- 地域活動を行っていく上で必要とされる、具体的な相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能を身につけている。【専門分野のスキル】

(地域ボランティア養成コース)

- 地域活動を行っていく上で必要とされる、ボランティア実践の手法、スポーツ指導技術、障害者スポーツ指導技術といった技能を身につけている。【専門分野のスキル】

#### ■ 思考・判断・表現

- 地域に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断し、地域が抱える問題の本質を見抜くことができる。また、論理的、創造的にものごとを考え、問題解決策を提案できる。【課題発見・分析・解決力】

- 自らすすんで自分の考えを伝える機会をつくり、様々なテクニック、機器を用いてプレゼンテーションを行うことができる。【プレゼンテーション力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- 生涯にわたり、地域における社会活動に積極的に取り組むことができる。【実践力（チャレンジ力）1】

- 何事もやってみなければわからないと挑戦する姿勢を持ち、自ら設定した計画は最後まで粘り強くやり遂げることができる。【実践力（チャレンジ力）2】

- 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】

- 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】

- 社会人として常識をわきまえて主体的に行動することができる。【市民としての社会的責任・倫理観】

- 地域における諸問題に対して、生涯にわたり常に高い関心を持ち続けることができる。【生涯学習力】

- 地域社会の中で他者との豊かな関係を築くコミュニケーション力を身につけ、目標に向けて協力的に仕事を進めるチームワーク力とリーダーシップを発揮できる。【コミュニケーション力】

### 教育課程編成・実施方針

地域創生学群では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目群」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。

- 「基盤教育科目」から 40 単位以上、「専門基幹科目」から 30～48 単位、「専門科目」から 36～54 単位を修得する。

- 地域創生学群の理念・目的のもと、養成する人材像に対応した履修コースとして、地域マネジメントコース、地域福祉コース、地域ボランティア養成コースを設ける。「専門基幹科目」「専門科目」は、各履修コースの目的に対応して履修するものとし、個々が貢献すべき分野に関する専門性を高める。

- 履修形態として、1～7 限開講制とする「通常枠」と、主に昼間に仕事を持つ学生のために平日の夜間及び土曜日に割り振られた授業科目を中心に履修する「夜間特別枠」を設ける。「専門基幹科目」においては、履修形態の特性に配慮し、教育課程を編成・実施する。

- 基盤教育科目

卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。幅広い教養と問題意識を培うために、「教養教育科目」「情報教育科目」「外国語教育科目」の中から合計で 40 単位以上を修得する。(詳細は別記)

- 専門基幹科目

地域理解のあり方や地域の現状・課題について、総合的な把握・理解を目指す中核科目群とする。地域に関する理論・現場理解、生涯にわたる学習力を身につける講義科目、地域活動に不可欠な技能、課題発見・解決力、実践力、表現力、社会人としてのマナー、コミュニケーション力等を重点的に養う演習科目、実習科目を配置する。特に、実習科目は、履修コースの特性に応じた科目を 2・3 年次に配置し、実習で得た知見と、同時並行的に学習していく知識・理論とを演習の場で有機的に結合していくことを重視する。

各年次における学習目標は以下のとおりとする。

1 年次は、地域とは何か、地域創生とは何か、地域への働きかけの方法の基本を学習する。2 年次は、実習を通じた地域の実態把握から問題点を抽出し、実践活動につなげる。3 年次は、実践活動を通じて問題点を整理し、より広い視点から活動を見直す。4 年次は、これまでの学習の集大成として卒業論文・卒業実践報告を作成する。

通常枠は、必修科目 26 単位、選択科目 4～22 単位を修得する。夜間特別枠は、必修科目 22 単位、選択科目 8～26 単位を修得する。

- 専門科目

多面的な視野による状況判断によって、地域問題の本質を見抜き、問題解決策を考える力を身につけるため、個々が貢献すべき分野に関する発展的な理論や専門知識、技能を習得する科目群とする。各履修コースの目的を踏まえ、法学、政策科学、経済学、経営学、情報科学、会計学、社会福祉学、心理学、生涯スポーツ学等の分野の科目を配置する。また、各履修コースの重要科目は、必修科目として設定する。また、個々の進路に応じた専門性を付与するため、選択科目で修得する単位数は幅を持たせて設定する。

必修科目 4 単位、選択科目 32～50 単位を修得する。

- 職業を有している等の事情によって、標準修業年限である 4 年を超えて、5 年または 6 年にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを認める長期履修制度を運用する。
- 「専門基幹科目」「専門科目」において、社会福祉士国家試験受験資格、公認スポーツ指導者資格、公認障害者スポーツ資格を取得するために必要な科目を配置する。

## 入学者受入れ方針

地域創生学群では、次のような学生を求めています。

- 基礎学力と同時に総合的な人間力を持った学生
- 総合的な人間力の有無を重視するユニークな選抜方式に合格した社会の幅広い層の学生

## 基盤教育の方針

### 学位授与方針

#### ■ 知識・理解

- 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】

#### ■ 技能

- 情報社会における情報及び情報システム、インターネットの特性を理解し、それらを活用する技能を身につけている。【情報活用能力】
- 自然現象や社会的事象に関する量的調査の基本的な考え方と分析技法を身につけている。【数量的スキル】
- 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。<sup>※1</sup>【英語力】
- スペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれかを用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。<sup>※2</sup>【その他言語力】

#### ■ 思考・判断・表現

- 人間理解に必要とされる、既成概念の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。【課題発見・分析・解決力】

#### ■ 関心・意欲・態度

- 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- 人間の総合的な理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって帰属する社会において積極的に行動できる。【市民としての社会的責任・倫理観】
- 各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。【生涯学習力】
- 相互理解を深めるコミュニケーションを通じて、他者の協調を得ながら、共により良い社会を形成することができる。【コミュニケーション力】

<sup>※1</sup> 外国語学部、経済学部、文学部、法学部、国際環境工学部

<sup>※2</sup> 外国語学部、文学部

### 教育課程編成・実施方針

基盤教育の目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

#### [外国語学部 経済学部 文学部 法学部 地域創生学群]

「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的として、「教養教育科目」「情報教育科目」「外国語教育科目」で構成する。各科目群の内容は以下のとおりとする。

#### ■ 教養教育科目

主体性と社会性を備えた人間観を基軸とする「人間史のクローバー」を基本的枠組みとして、「ビジョン科目領域」「ライフ・スキル科目領域」「キャリア科目領域」「教養演習科目領域」「テーマ科目領域」「教職関連科目領域」で構成する。

##### □ ビジョン科目領域

既成概念を根本的に問い返すことによって、人間の総合的な理解につながるビジョンを提供する科目領域とする。課題分析・解決力、生涯学習力を形成するための科目を配置し、専任教員が担当する。

1年次配当科目から2単位、2年次配当科目から2単位以上を修得する。【外国語学部 経済学部 文学部 法学部】

##### □ ライフ・スキル科目領域

社会生活を送る上で基本となる課題分析・解決力、心身の健康、生涯学習力、コミュニケーション力を高めていくための科目領域である。選択必修科目5科目を配置し、2単位以上を修得する。【外国語学部 経済学部 文学部 法学部】  
また、スポーツを通じた健康管理を目的とする選択科目2科目を配置する。

##### □ キャリア科目領域

将来働く上で必要となる課題分析・解決力、市民としての社会的責任・倫理観、コミュニケーション力などキャリア形成に向けて主体的に準備行動ができる力を育成するための科目領域である。自分自身を振り返りつつ、社会で働いている人たちをモデルとしながらどのような学生生活を送ればよいのかを学生自らが考えることを目的として、選択必修科目6科目を配置し、2単位以上を修得する。【外国語学部 経済学部 文学部 法学部】

また、地域で活動するにあたっての考え方やマナー等を学びながら、実践活動の経験から学ぶことができるように選択科目6科目を配置する。

□ 教養演習科目領域

少人数・討論型の授業によって、人間の総合的理解、課題分析・解決力、生涯学習力を高めていく科目領域とする。1年次に基礎演習科目、2・3年次に演習科目を配置する。

□ テーマ科目領域

「自然環境と人間」「思想文化と人間」「地域社会と人間」「国際社会と人間」「歴史と人間」の5つの科目群で構成する。各科目群では、基本的な問題とテーマを設定し、問題を多角的に広く考察する視座、人間の総合的な理解、生涯学習力を獲得することを目的とした科目を1年次に配置する。

□ 教職関連科目領域

教員免許の取得を目指す学生が「教科に関する科目」として履修する科目を配置する。

■ 情報教育科目

(1) 情報社会に参加するための基礎的な知識・考え方・態度の習得

(2) 情報を活用する技能の習得

(3) 課題発見・解決力、情報発信力の育成

の3つを学習の柱とする科目群とし、情報に関する理論と実践を学ぶ科目を体系的に提供する。すなわち、1年次に「データ処理」、2年次に「情報表現」、3年次に「情報メディア演習」を配置する。「データ処理」を必修科目として2単位以上を修得する。[外国語学部 経済学部 文学部 法学部]

■ 外国語教育科目

「第一外国語(英語)科目」と「第二外国語科目」で構成する。

□ 第一外国語(英語)科目

聴解・読解とともにコミュニケーション・内容を重視した授業を通して、学生の実践的な英語力(4技能(聴く・読む・話す・書く))を総合的に向上させる。

1年次に英語Ⅰ～Ⅳ、2年次に英語Ⅴ～Ⅷを配置し、8単位を履修する。英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅶは、日本語を第一言語とする教員が聴解と読解を中心に担当する。英語Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ、Ⅷは、英語を第一言語とする教員が会話と作文を中心に担当する。クラス編成は到達度別に行い、それぞれの到達度に応じた指導を行う。

英語Ⅰ～Ⅷに加えて、より高度な英語力を養成するため、英語Ⅸ～Ⅻを選択科目として3年次に配置する。

英語Ⅰ～Ⅷを必修科目として8単位修得する。[外国語学部 経済学部 人間関係学科 法学部]

英語Ⅰ～Ⅳを必修科目として4単位、Ⅴ～Ⅷを選択必修科目として4単位修得する。[比較文化学科]

□ 第二外国語科目

基本的なコミュニケーションのための言語習得を目標に、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語を学習する。

各言語とも、1年次には、4技能の基礎を習得する初級科目Ⅰ～Ⅳを、2年次には、自分の考えを口頭・文章表現で的確に伝え日常的なニーズを満たすことが出来る程度の読解・聴解力を習得する中級科目Ⅴ～Ⅷを選択科目として配置する。

中国語、朝鮮語については、より高度な読解力・作文力を養成し、総合的な会話表現力を習得するための上級科目を選択科目として3年次に配置する。

各言語のⅠ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵでは文法を中心に学習し、Ⅲ、Ⅳ、Ⅶ、Ⅷではオーラル表現を習得する。

言語を揃えてⅠ～Ⅳを選択必修科目として4単位修得する。[英米学科 人間関係学科]

Ⅰ～Ⅳについては、言語を揃えて選択必修科目として4単位修得する。Ⅴ～Ⅷについては、上記6カ国語に英語を加えた7カ国語の中から1カ国語を選択必修科目として4単位修得する。[比較文化学科]

中国語または朝鮮語Ⅰ～Ⅷを選択必修科目として8単位修得する。[国際関係学科]

[国際環境工学部]

「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的として、「教養教育科目」と「外国語教育科目」で構成する。各科目群の内容は以下のとおりとする。

■ 教養教育科目

大学生として相応しい知的生活を送るための教養を身に付けること、そして基礎教育から専門教育への円滑な移行をはかることを目的として、「人文・社会科目」と「環境科目」で構成する。各科目の内容は以下のとおりとする。

□ 人文・社会科目

人文・社会科学に関する理論と事例学習を通じ、人と社会について体系立てて理解し、主体的に思考するための基礎となる知識を提供する科目群とする。また、エンジニアを含めた職業人との交流や具体的な事例学習を通じて、

社会の仕組みを理解するための基礎知識も提供する。16 単位以上を修得する。

尚、1 年次配当科目のうち、入門ゼミ、心と体の健康学、経済入門Ⅰ、職業と人生設計、3 年次配当科目のうち工学倫理が必修科目である。また選択必修科目として、1 年次 1 学期に北方キャンパスで開講される科目のうち 1 科目 2 単位以上を修得する必要がある。

□ 環境科目

地球規模に拡大した環境問題の基礎知識の習得を目的とした科目群である。配置する科目を通して、習得した知識の検証、活用などをはじめとして、いわゆる「社会人基礎力」として必要なチームワークやコミュニケーションに関する実践的な活動の仕方を学習する。さらに、知識についても、科学的知識だけでなく、市民や行政の観点から収集された知識、企業活動において必要な環境問題に関する知識など幅広く学習する。

1 年次配当科目のうち、環境問題特別講義、環境問題事例研究が必修科目である。8 単位以上を修得する。

■ 外国語教育科目

自分の専門分野において異なる文化的背景を持った人々と英語を用いたコミュニケーション活動ができるよう、内容・コミュニケーション形態を重視した授業を通して、英語の四技能を向上させる科目群とする。

1 年次に、英語のリスニング・リーディングを指導する英語Ⅰ・Ⅱ、英語を用いた基本的なプレゼンテーションができる教育を行うプレゼンテーションⅠ・Ⅱを配置し、4 単位を修得する。英語Ⅰ・ⅡとプレゼンテーションⅠは、日本語を第一言語とする教員が中心に担当し、プレゼンテーションⅡは、英語を第一言語とする教員が担当する。

2 年次に、選択科目群 A と選択科目群 B を配置する。

選択科目群 A は、TOEIC 470 点相当以上の英語力が身に付いた学生に対して、科学技術英語Ⅰ・Ⅱを通して専門分野への橋渡しとなる教育を行う一方で、そのレベルに到達していない学生に対しては TOEIC を素材とした教育を行う科目群である。2 単位以上を修得する。

選択科目群 B は、学生の英語力のみならず興味の対象や卒業後の進路に応じて、英語学習を行う科目群である。2 単位以上を修得する。

また、上記のほか、学習意欲の高い学生に対応するため、TOEIC 基礎・応用、Intensive English Course を 1 年次に、さらにより高度な英語力を身につける Academic Writing、Topic Studies A/B/C/D を 3 年次に配置する。